まとめ

今回の発掘調査によって、山室遺跡には古墳時代後期の大きな集落が存在していたことが分かりました。 さらに砥石・鉄滓の出土から、山室遺跡では鍛冶を行っていたと考えられます。次に、文献史料を手がかりに山室遺跡の評価を試みてみましょう。

文献史料から、遺跡周辺は新家屯倉の推定地にあたることが分かります。屯倉とは、ヤマト政権の直轄地とその拠点となる施設をさし、6世紀から全国的に設置されます。『日本書紀』には、那津(福岡市)に官家を建て各地の穀を運ばせるという記事があり、物部麁鹿火には新家連を遣わして新家屯倉の穀を運ばせています。新家屯倉は、現在の新家町付近とされており、式内社の物部神社もあります。山室遺跡はこの新家屯倉の一部を構成するような有力な集落だったのかもしれません。

さらに、新家屯倉に深く関わった物部氏は、ヤマト 政権において生産技術集団を統率する役割を担ってお り、その中心が武器・祭器の生産にあったと考えられ



写真11 中世の火葬墓

奥の瀬戸焼の四耳壺に火葬した骨を納めて、手前のすり 鉢を蓋にしていました。このほか、弥生時代中期の土器も まとまって出土しています。



写真 10 山室遺跡から出土した鉄器と鉄滓、砥石 鉄滓は、鉄を加工したときにできます。多くの砥石 も出土していることから、山室遺跡では鉄器を加工し ていたことが分かります。

ています。山室遺跡出土の砥石・鉄滓から、この地には物部氏やそれに連なるような氏族が関係していた可能性も推測できるのです。

このように、山室遺跡の発掘調査によって一 志郡の歴史にとどまらず、ヤマト政権との関わり方についても解き明かす手がかりが得られたのです。本格的な解明は今後の調査に委ねられますが、山室遺跡で得られた成果はとても大きいといえるでしょう。

1. 遺跡名 山室遺跡

2. 所在地 三重県津市牧町

3. 原因事業名 平成 23 年度高度水利機能確保基盤

整備事業

4. 調査期間 平成23年5月17日~9月9日

5. 調査面積 約 1200㎡

やまむろいせき山室遺跡

発掘調査だより

平成23年9月3日 三重県埋蔵文化財センター

はじめに

津市牧町にある山室遺跡は、雲出川に近いの どかな水田地帯にあります。平成12年度の発 掘調査では、平安~室町時代の土器が出土して います。

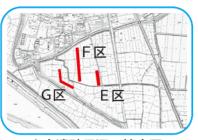
今回の調査は、ほ場整備に先立って行われました。その結果、E区とF区から古墳時代後期(今から1500年前)の竪穴住居や土器などが数多く出土しました。また、G区からは中・近世の溝などが見つかっています。



写真1 E区の全景



図1 山室遺跡と周辺の遺跡



山室遺跡周辺の拡大図 赤い部分が今回、調査を行ったところ



写真2 E区で見つかった竪穴住居



写真3 E区から出土した土器



写真 4 韓式系土器

E区の調査成果

E区では、北側に竪穴住居が集中していました。また、南側では、土器がたくさん出土した土坑(地面を掘ってできたあな)が見つかりました。

【遺構】

竪穴住居が少なくとも6棟みつかりました。なかには一辺が7.4mの竪穴住居がみられ、この時期のものとしては大変大きなものです。

【遺物】

多数の土師器・須恵器のほか、韓式系 土器片1点がみつかりました。わずか1点 ですが、この地に朝鮮半島から渡って来た 渡来人、あるいは彼らと深く関連する人 物がいたことが分かります。

竪穴住居からは曲刃鎌、刀子などの鉄器が見つかりました。さらに、砥石6点が出土しています。この点から山室遺跡では、鉄器の加工を行っていたことがわかります。このほか、糸をつむぐための紡錘車が出土しています。

【時期】

出土した土師器は、古墳時代中期後半から後期のものが中心です。 したがって、E区では、この時期に竪穴住居が数多くつくられ、集落 が形作られたと考えられます。

このほか、縄文時代の凹石が1点確認されました。この地では、縄 文時代から人々が生活をしていたことが分かる貴重な資料です。



写真5 紡錘車 糸をつむぐための道具です。斜面には

文様が刻まれていることが分かります。



写真7 石のやじり

F区の調査成果

F区のうち、南側では河川の跡がみつかり、遺構はほとんどありませんでした。一方の北側では、古墳時代後期の竪穴住居、古墳時代初頭の土坑、東西方向の溝などがみつかりました。

【遺構】

竪穴住居は7棟みつかりました。竪穴住居には、かま どを設けて、土器を安定させるために棒状の石材を置い ていることが分かりました。

土坑からは、古墳時代初頭の土器がまとまって出土しました。また、別の土坑から石鏃(石でできたやじり)が1点出土しています。東西方向の溝は、4本みつかりました。溝はいずれも中世に掘られたと考えられます。

【遺物】

竪穴住居からは土師器・須恵器のほか、鉄滓(鉄を加工したときにできる鉄のかす)、大型の砥石 1 点が出土しました。土坑からは、古墳時代初頭の土器がまとまって出土しています。なお、別の土坑でみつかった石鏃は縄文時代のものと考えられます。



写真6 F区のようす

【時期】

出土した土器から、多くの竪穴住居は古墳時代後期と考えられます。したがってF区でもこの時期 に集落が形作られていたのでしょう。なお、古墳時代初頭の土器がまとまって出土していることから、 近くにこの時代の集落があった可能性があります。



写真8 F区の土器1 古墳時代初頭の土器です。



写真9 F区の土器2 古墳時代後期の土器です。